

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 全日制)

目指す学校像	人間性豊かな、地域産業を担う職業人の育成
重点目標	1 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る 2 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する 3 物事を探求できる力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する 4 協働教育による開かれた学校づくりを推進する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	10名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
2年度目標					2年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 授業や資格取得に対して主体的に取り組む生徒は増加傾向にあるが、自発的な学習に取り組む生徒が少ない。 【課題】 主体的・対話的な言語活動の伴う授業や、資格取得に積極的に取り組める環境を整え、学習意欲の向上と共に、自ら考える力を引き出す必要がある。	学習意欲の向上を目指した授業改善を図る	①学力養成委員会と学年が連携し、生徒の実態に合わせた課題と学習形態を検討し実施する。 ②各教員が、「主体的で対話的な深い学び」を引き出す授業に取り組み、実践内容を踏まえ教員研修会を実施する。	①生徒アンケートで、「自主学習することが習慣化している」が前年度(27%)より上昇したか。 ②生徒アンケートで「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が前年度(77%)より上昇したか。	①生徒アンケートの「自主学習することが習慣化している」が39%となり、前年度より大幅に上昇し、過去5年間で最も高くなった。関連して朝学習への取組姿勢も前年度より2%上昇し、50%となった。 ②生徒アンケートの「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が76%であり、高いレベルで推移している。 ○学習に向かう姿勢は全体的に向上しており、学習意欲の向上を目指した授業改善が図られている。	A	新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、授業や学校生活にどのように影響するか懸念されたが、全体としては、落ち着いた状態で、前向きに取り組む姿勢が見られた。 新型コロナウイルス感染症の影響は、次年度もしばらくは続くものと思われるが、「主体的で対話的な深い学び」を引き出す授業の実現に向けた取組を継続していく。	・「主体的な学び」は、大学においても就職先においても必要なことである。学校全体で取り組み、ぜひ伸ばして欲しい。 ・新型コロナウイルス禍でどうにもならない部分もあったと思う。また、先生方だけでなく生徒も、一緒になってこれからどうしていくか考える良い機会であったと思う。その意味でも、「生きる力」を身につける経験ができたのではないかと。 ・ネット配信等、DXを念頭に置いてすでに取り組んでいる様子が見える。企業においてもなかなかデジタルに対応できていない状況にある。9月にデジタル庁が発足という話もあり、今後デジタル化は強制的に始まるだろう。ぜひ対応できるように教育活動を進めていただきたい。
		資格取得に向けた指導の充実を図る	①各教科・学科が、資格取得に向け補習等を計画的に実施し、充実させる。 ②各教科・学科は、生徒や保護者に対し積極的に資格取得に関する情報を提供する。	①生徒アンケートで「資格取得が充実している」が前年度(79%)より上昇したか。 ②資格取得に向けて、取り組む生徒が前年度に比べて上昇したか。	①生徒アンケートの「資格取得が充実している」が78%であり、高いレベルで推移している。 ②生徒アンケートの「資格取得に向けて積極的に挑戦している」が前年度より2%上昇し、58%となった。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、資格試験の中止が相次いだ。意欲的に取り組む生徒が多かった。	B	資格試験の実施が例年どおりに行われない状況にあっても、各教科が情報収集と計画的に資格指導に取り組むとともに、補習の方法や会場の在り方などの支援方法についても検討し、生徒が意欲的に挑戦する環境を整えていく。	
2	【現状】 昨年は遅刻者数が増加し、基本的な生活習慣の改善が求められる。また、他者や社会との関わり方に課題を抱えた生徒がいる。 【課題】 基本的な生活習慣の改善と規範意識の醸成を図るため、教育活動全体をとおした指導を行うことが必要である。	基本的な生活習慣の定着および、自己肯定感の醸成を図る	①生徒指導部と学年が連携し、遅刻防止指導を組織的に行う。 ②生徒指導部通信を活用し規範意識の醸成を図り、学校を誇りに思える生徒の育成を行う。	①年間遅刻数が前年(1105人)を下回ったか。 ②生徒アンケートで、宮工を誇りに思えるとの回答が70%を超えたか。	①年間の遅刻者数が延べ101人(約17%)減少した。 ②生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が81%となり、前年度より大幅に上回った。生徒指導部通信を5回発行し、規範意識の醸成を図った。	A	新型コロナウイルス感染症の影響は、生徒の学びや生活面に少なからず表れるものと考えられるが、遅刻防止のための指導や朝学習、生徒指導部通信の発行などを継続し、生徒が規則正しい生活習慣を確立するとともに、規範意識の更なる向上を目指す。	・新型コロナウイルス禍の中においても、感染防止対策を徹底しながらも、力強く教育活動を進めていただいたことに感謝する。学校のこのような姿勢や取組が、「宮工に入学して良かった」というアンケート結果や、規範意識の向上につながっているものと思う。 ・ものづくりを生業にする製造業において、「5S」は特に重要なこと。高校生の頃から5Sを意識し、習慣化しておくことは、将来にわたって大切なことである。ぜひ継続していただきたい。
		5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の定着を図る	①特別支援教育委員会を中心に、自己管理能力の育成に努める。 ②5S活動の定着を図るため、生徒会を中心とした諸活動において啓蒙活動を実施する。	①生徒手帳の活用調査で、行事や授業における活用状況割合が50%を超えたか。 ②生徒アンケートで5S活動に取り組めたとの回答が65%を超えたか。	①生徒アンケートの「生徒手帳の活用状況」が目標の50%には届かなかったものの、12%上昇し43%となった。 ②生徒アンケートの「5S活動への取組」が66%、「交通のルールやマナーを守っている」が93%であり、こちらも昨年度と横ばいであり、高いレベルで推移している。	B	生徒手帳の活用による、自己管理や課題解決能力の向上を継続していく。 5S活動の定着が見られるが、生徒自身が意欲的に取り組むなど、より質の高い取り組みとなるよう活動内容や支援方法を検討し実践していく。	
3	【現状】 進学、就職の進路状況は充実しており、自己実現に向けて行動力を持った生徒が増加する兆しがある一方、計画性に乏しい。 【課題】 自己実現に向けて継続的に取り組む態度を身に付けた、社会性のある人材の育成が求められる。	社会人基礎力の向上を図る	①学習活動や部活動、学校行事をとおして、考え抜く力(課題発見力、計画力、創造力)を育成するために、計画的に取り組む。 ②各教科・学科と学年は、学校における諸活動を通じて、生徒が将来の目標に向けて前に踏み出す力の育成を図る。	①生徒アンケートで委員会活動や部活動、学校行事へ積極的に参加したかが70%を超えたか。 ②部活動加入率(昨年度82.8%)の向上や資格取得に取り組んだ者、または取得者が増加したか。	①新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限された状況の中でも、委員会活動は73%、部活動は66%、学校行事は84%になるなど、意欲的に参加していた。 ②部活動加入率は81%であり、高いレベルで推移している。 ○資格取得への取り組みについては、受験機会が減少するとともに、様々な制約が課せられたが、あきらめることなく、熱心に資格取得のための支援・指導が行われた。	A	特別活動および資格取得全般に、中止や延期、活動の制限などの影響を受けた。 新型コロナウイルス感染症の影響は、次年度もしばらくは続くものと思われるが、生徒一人ひとりが集団活動に自主的・主体的に取り組めるよう、各分掌や学年等が連携して、企画から運営を行っていく。	・新型コロナウイルス禍の中、これだけ行事やスケジュールが制限された中で、これだけの達成度は大変高いと感じる。これは、校長先生はじめ、先生方、生徒の努力によって成しえたもの。とても素晴らしいことである。 ・まだまだ新型コロナウイルスの影響は随所に現れてくるものと思われるが、引き続き教育活動を力強く前に進めていただきたい。 ・進路関係で、一部の生徒が大学一般入試の結果待ちで、ほぼ100%決まっている状況はとても素晴らしいことである。先生方の御尽力、生徒たちの努力に敬意を表する。
		地域の教育力を活用し勤労観の醸成を図る	①進路指導部、体験活動委員会が中心となり、学年と連携しインターンシップや進路ガイダンス、外部講師による講話などを実施する。 ②各教科・学科と学年は、生徒の活動の成果を発信する機会をつくり、表現力や傾聴力の伸長を図る。	①進路実現に対する意識が強くなり、進路行事に積極的に参加する生徒の割合が80%を超えたか。 ②課題研究発表会やインターンシップ発表会などを、他学科や他学年、外部向けに実施できたか。	①アンケートの「適切な進路指導が行われている」が81%であり、高いレベルで推移している。また、「進路行事に積極的に参加している」が前年度より5%上昇し、55%となった。 ②工業全学科が、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、課題研究発表会を実施した。また、分掌および学年が連携するとともに、地域の企業や関係機関の協力を得て、インターンシップを実施することができた。	A	新型コロナウイルス禍においても、就職試験の合格率は、全国平均よりも10%以上高い水準を維持することができた。(10月末時点:本校75.5%、全国64.2%) 次年度も、分掌および学年が連携するとともに、地域の教育力を活用し、生徒の勤労観や職業観の育成のための指導方法を検討・実践し、生徒の進路実現の支援を行っていく。	
4	【現状】 地域、企業との連携による協働教育は浸透しつつある。一方、情報発信が少なく、本校の魅力を十分に伝えられていない。 【課題】 地域と学校の信頼関係の深化を図り、地域とともに人材を育成する協働教育を一層推進する必要がある。	学校が地域社会に貢献する取り組みを実践し、学校への理解を深め必要性が高まるよう努める	①地域と連携した取り組み(チャレンジスクール、出前授業等)を実施し、地域社会とのつながりを深める。 ②各分掌、部活動等はホームページの更新やその他刊行物の定期的な発行・配布など広報活動を積極的に行い、学校の魅力を発信する。	①地域との連携を深める取り組みを年5回以上実施できたか。 ②学校説明会や学校行事等への来校者数が増加したか。	①泰平中学校の「チャレンジスクール」や地域の中学校での出前授業を6回実施した。また、地元自治会へのベンチの寄贈に向けた取り組みを行った。 また、埼玉県埋蔵文化財調査事業団と連携した取組が埼玉県キャリア教育実践アワードにおいて最優秀賞に輝いた。 ②学校説明会等への参加者数は延べ649組であった。 学校ホームページによる情報発信が積極的に行われ、年間275回更新された。また、学校広報紙の「宮工タイムズ」の発行を行った。	A	新型コロナウイルス感染症の影響は、次年度もしばらくは続くものと思われるが、次年度も、地元を含めて全県的に交流の機会や場面を作り、地域社会との連携を図れるように模索する。 学校の教育活動の理解を深めるために、学校説明会の企画内容の改善や、生徒の活躍や学校の実際を伝えるためにホームページの更新を適時行っていく。	・「チャレンジスクール」に先生方を派遣していただきとてもありがたい。生徒たちも大宮工業高校に親しみを感じており、大宮工高への進学者も増えている。 ・新型コロナウイルス禍の中においても、確実に成果を上げている。 ・ホームページでの情報発信により、学校の教育活動を確認するとともに理解することができた。ぜひ継続していただきたい。